

体の動きを高める運動領域部会 部内授業 指導案

【研究主題】

自ら学び続ける力を仲間と共に身に付ける体育学習

—運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して—

1 体の動きを高める運動領域における研究主題の捉え方

本部会では、「自ら学び続ける子ども」を「子供自身が学習課題を見だし、自らの取組を他者と比較しながら振り返り、新たな学習課題を見いだすことができる」と捉えている。

「子供一人一人の目的に応じて、学習課題を設定し、その学習課題を解決しながら体の動きを高めていく」という体の動きを高める運動領域の特性があることから、「子供自ら学習課題を設定すること」は自ら学び続ける力と関連性があると考えている。

運動選択に対する学習課題の設定	運動の行い方に対する学習課題の設定	学び方に対する学習課題の設定
子供から自分の体力に応じた学習課題を見いだしている。	他者の学び方に目を向けて比較し、新たな学習課題を見いだしている。	客観的に自分を見て、振り返り、学習課題を見いだしている。
【想定される子供の具体的な姿】		
<u>タイミングを高めるために</u> (自分の体力に応じた) <u>長なわ跳びに取り組みたい</u> (学習課題)	<u>〇〇さんが、ボールをつきながら跳んでいたから</u> (他者の学び方に目を向けて) <u>タイミングをもっと高めるために</u> (自分の体力に応じた) <u>その工夫を取り入れて長なわ跳びに取り組んでみよう</u> (学習課題)	<u>自分の動画を見ると足裏のベタっとなっていたから</u> (ICT機器を活用しながら客観的に自分を見て) <u>タイミングをもっと高めるために</u> (自分の体力に応じた) <u>足の着き方に気を付けながら長なわ跳びに取り組もう</u> (学習課題)

学びのサイクルを、「一単位時間」で回すことができるようになることを目指していく。子供は、毎時間、「見通し」→「行動」→「振り返り」…といったサイクルを繰り返すことで、それらの経験を通して、学びのサイクルの推進力が強くなり、自ら学び続ける力が高まるであろうと考えた。

2 研究の重点

(1) 自ら学び続ける力を身に付けることができる第6学年の学習過程、指導計画の立案

→学びのサイクルを子供自ら回す中で、体の動きを高めることの必要感を感じながら、課題解決を図り、新たな課題を見いだすことにつなげ、自ら学び続けることができる第6学年の子供の育成を目指していく。

(2) 体の動きを高める必要感を子供自ら感じながら、学び方を共有できる環境整備、学習資料の充実

→令和6年度の研究で教師が子供の学習状況を見取り、1単位時間内の共有の時間の設定や、共有形態を柔軟に設定してきた。本年度は、子供が自ら体の動きを高めることの必要感を感じながら学び方を共有することができるような学習環境の整備や学習資料の充実を行っていく。

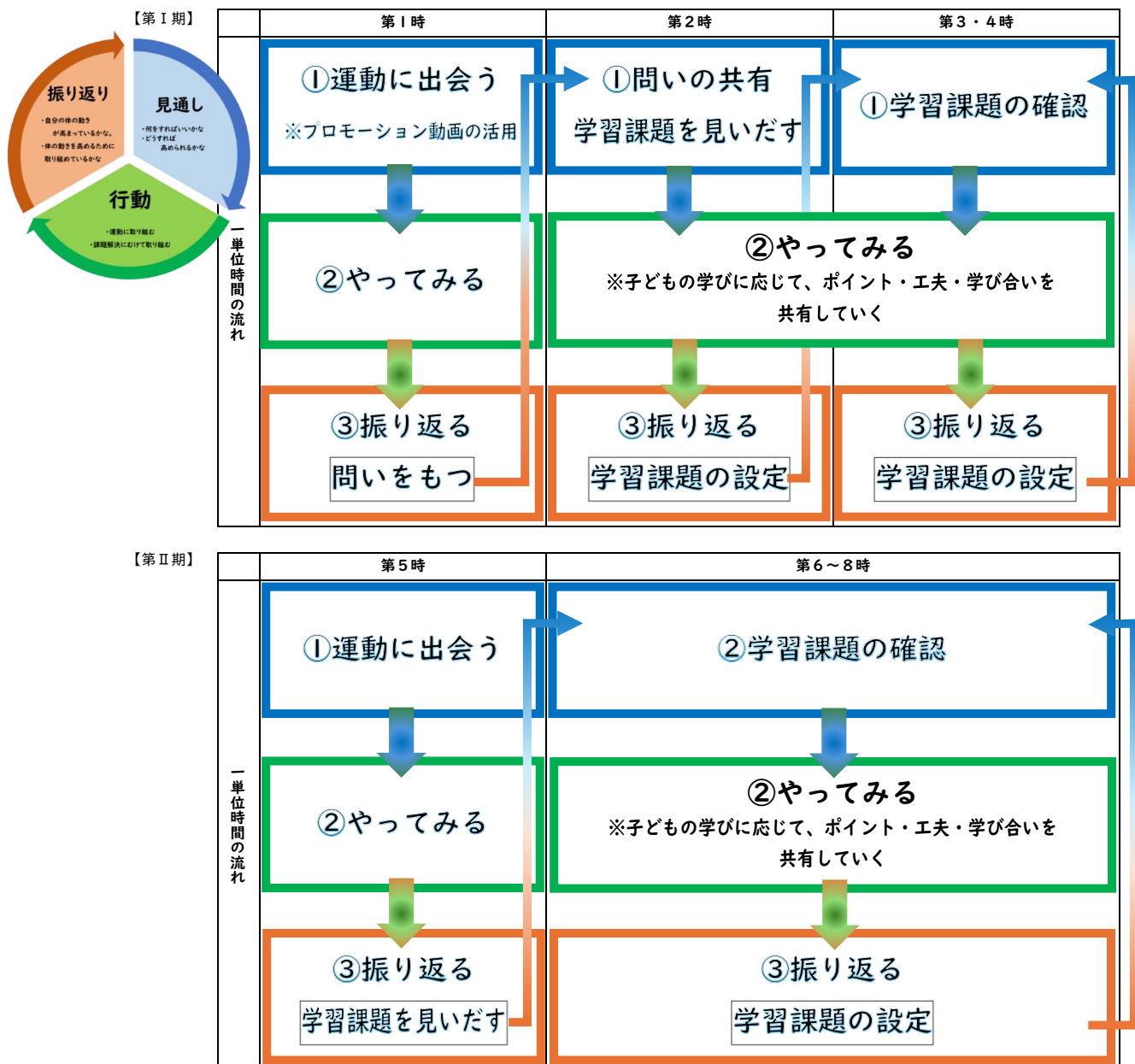
(3) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

→体づくり運動を行う上での楽しさや課題解決の喜びを味わえることを前提とし、「体の動きを高めることにつなげることができる」「仲間と関わりのある」等の視点で、運動例を検討し、充実を図る。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

(1) 自ら学び続ける力を身に付けることができる学習過程の工夫

本部会の目指す子供の姿となるように、第5・6学年の全20時間を、第5・6学年で行う体ほぐしの運動を除く、16時間を4時間ずつの第Ⅰ期～第Ⅳ期に分けた。その16時間を、具体的に段階を分け、学習計画を作成した。部内授業では、第5学年で十分に体の動きを高める運動の学びに触れていない実態を踏まえ、第6学年のみの学習過程に基づき、授業を行う。第Ⅰ期では、学び方を知って運動に取り組み、第Ⅱ期では、第Ⅰ期で学んだ学び方を生かして運動に取り組みめるような流れを設定した。自ら学び続ける力が高まるように、一単位時間を下記の通りに取り組むことで、自ら学びのサイクルを回すことができるようになると思った。



【第5学年・第6学年の計画】

		第Ⅰ期【目的意識をもつ段階】				第Ⅱ期【学び方を知る段階】			
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
第5学年	体ほぐし	運動との出会い	柔			運動との出会い	柔		
		①を やってみる	①			①・②を やってみる	①・②		
		第Ⅲ期 【第5学年までの学習を生かして運動に取り組む段階】				第Ⅳ期 【簡単な運動の組み合わせを考える段階】			
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
第6学年	体ほぐし	柔		特		①・②・③・④ から やってみる	①・②・③・④		
		①	②	①・②					

【第6学年の計画】 ※第5学年で十分に体の動きを高める運動の学びに触れられていない場合

		第Ⅰ期【学び方を知る段階】				第Ⅱ期【学び方を生かす段階】			
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
第6学年	体ほぐし	運動との出会い	柔			①をやってみる	柔		
		①を やってみる	①・②			①・②	①・②・③		

(2) 体の動きを高める必要感を感じながら、学びを共有できる学習環境の工夫

① 共有内容の具体化

体の動きを高める運動では、自己の体力に応じて学習課題をもち、課題解決に向けて動きのポイントや工夫を意識して運動に取り組むことが、自らの動きを高めることにつながる。そのためには、学び方の理解や見通しをもたせる全体での共有と、運動の内容や学びの状況に応じて柔軟に共有タイムを設定したり、子供同士で自然に学び合えるような場を設けたりすることが重要である。

本部会では、そうした学びの質を高めるために、全体で共有すべき内容と取り組む運動ごとの小集団で共有し合う内容を以下のように整理した。自ら学び続ける力を身に付けるための環境整備(共有スペース)「体の動きを高める運動」においては、子供が自ら課題を見だし、その解決に向けて主体的に取り組んでいくために、仲間との対話や学び合いが自然に生まれる環境づくりが重要であると考えた。そこで本部会では、子供一人一人が自ら「動きたくなる・考えたくなる・語りたいくなる」環境として、「共有スペース」を意図的に設置することで、自ら学び続ける力を高められると考えた。

この共有スペースには、掲示ボード・ホワイトボード・テレビモニターを背中合わせに配置し、学習の視点や動画による動きの可視化、子供自身の「困り感」や「工夫」を可視化・共有できる場として構成している。さらに今回の実践では、構想を以下のように広げた。

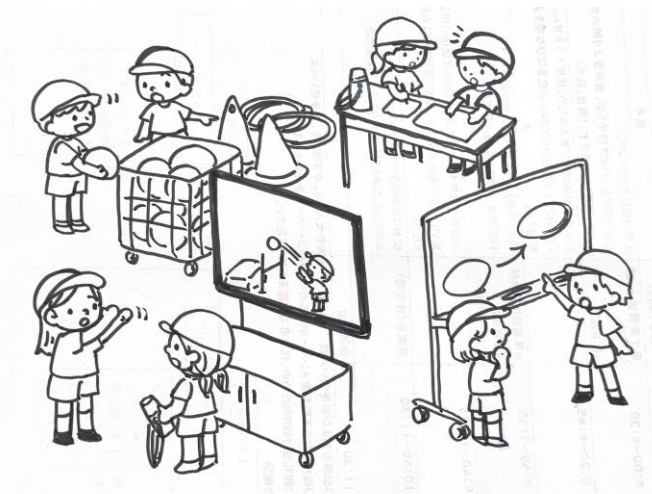
全体の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもち(高めたい力を意識して)、運動に取り組むこと。 ・ポイント(体の部位をどう動かすか)を意識して取り組むことで、体の動きを高められること。 ・動きを工夫して取り組むと、より体の動きを高められること。 ・仲間との学び合いを増やすことで、より体の動きを高められること。
小集団の学び (取り組む運動ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の動きのこつを知ること。 ・他者の工夫した動きを知ること。

② 単元において共有したい内容とタイミングの目安

6年	心と体の関係性に気付く	1	体ほぐし運動を通して、「体への気付き」「体の調整」「仲間との交流」を理解できるようにする。	
		2		
	<Ⅰ期> 学び方を知る段階	1	運動との出会い やってみる	学び合い
		2	目的意識	
		3	ポイント	
		4	動きの工夫	
	<Ⅱ期> 学び方を生かす段階	5	目的意識	学び合い
		6	ポイント	
7		動きの工夫		
8				

③ 自ら学び続ける力を身に付けるための環境整備(共有スペース)

【共有スペースイメージ図】



「体の動きを高める運動」においては、子供が自ら課題を見だし、その解決に向けて主体的に取り組んでいくために、仲間との対話や学び合いが自然に生まれる環境づくりが重要であると考えた。そこで本部会では、子供一人一人が自ら“動きたくなる・考えたくなる・語りたくなる”環境として、「共有スペース」を意図的に設置することで、自ら学び続ける力を高められると考えた。

この共有スペースには、掲示ボード・ホワイトボード・テレビモニターを背中合わせに配置し、学習の視点や動画による動きの可視化、子供自身の「困り感」や「工夫」を可視化・共有できる場として構成している。さらに今回の実践では、構想を以下のように広げた。

まず、共有スペースに机といすを設置し、子供が水筒の水を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で友達と自由に対話できる空間とした。休憩や振り返りの合間に自然と足を運びたくなるような「開かれた場」とすることで、学びに対する心理的ハードルを下げ、対話を通じた学びを促すことをねらいとした。

さらに、机の上には「トークカード(対話を促すカード)」を設置する。カードには「目的意識」「ポイント」「工夫」「学び合い」などの観点から問いを掲載し、子供が自分の思考を言葉にしたり、友達と学びを共有したりするきっかけとなるよう工夫している。こうした仕組みにより、子供たちは気付き → 試行 → 共有 → 再挑戦という学びのサイクルを自ら回していくことができる。

このように、共有スペースは、子供が“学びたくなる・語りたいくなる・動きたくなる”ための場であり、自ら学び続ける力を育む環境の一つとして、今後さらに充実させていきたい。

<共有スペースで見られる子供の姿>

共有スペースで見られる子供の姿	具体的な姿	手段(環境要素)
① 自分の学びをデザインする姿	・自分の課題や目的に気付く ・学習の見通しがもてる	掲示ボード (視点・発問・ヒント)
② 仲間と学び合い、思考を深める姿	・仲間と対話しながら考えを広げる ・工夫や困り感を言語化する	ホワイトボード (ロードマップ・付箋)
③ 動きを高め、実感する姿	・工夫を試し、変化を感じる ・やってみたい！を行動にうつす	映像提示・運動用具 (試行・再挑戦の場)

<具体的な活用イメージ>

共有スペースで見られる子供の姿	活用のタイミング・方法	運動例との関連(例)
① 自分の学びをデザインする姿	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の前後に掲示ボードで視点を確認 ●学びのロードマップに付箋で「困り感」や目指す姿として自分の「ゴール」を貼る ●高めるために必要だと思う用具、取り組んでよかったことを付箋に貼る 	<ul style="list-style-type: none"> ■スラックレール 「歩こうとするとグラグラする」 → 「重心を低くすると安定しよう」→ 「こうなりたい」を記入 ■ペットボトルバンブー 「リズムに合わない」→ 「音に合わせる方法を考えよう」
② 仲間と学び合い、思考を深める姿	<ul style="list-style-type: none"> ●ホワイトボードで仲間と「困り感」「できたこと」を付箋でつなげる ●友達の書いた発見や工夫を読み、自分の考えをメモする 	<ul style="list-style-type: none"> ■スラックレール 「足の向きを変えたら安定した」という友達の発見を読んで、自分でも試したくなる ■ペットボトルバンブー 「右から動き出すと揃いやすい」と話していた子と一緒にタイミングを合わせてやる

<p>③ 動きを高め、実感する姿</p>	<p>●用具コーナーで工夫をすぐ試せる●動画を見て自分の動きを振り返る</p> <p>●成功した工夫を付箋に書いて残す</p>	<p>■スラックレール タブレットで安定している子の映像を見て、足の幅をまねてやってみる→「安定した！」を実感</p> <p>■ペットボトルバンブー テンポを変えて試した結果、動きやすいリズムに気付き、ストップウォッチでタイミングを確認</p>
----------------------	---	--

(3) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

子供一人一人が、運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができるよう、運動開発の視点に新たな要素を加えた。その要素は、用具や場を見ただけで、「あの場ではあんな運動ができそう」「この用具で、こんな動きをしてみたい」と、運動のイメージを広げられるような運動であるかという点である。その要素を踏まえ、今年度の第6学年の部内授業で取り扱う運動例を以下の通り設定した。

体の柔らかさを高めるための運動	巧みな動きを高めるための運動	力強い動きを高めるための運動	動きを持続する能力を高める運動
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジョイストレッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわ+ ・スラックレール ・ペットボトルバンブー ・風船けまり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガロンスロー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンズクラップ

4 学習指導案

(1) 部内授業実施校等

豊島区立南池袋小学校

第6学年2組 児童：29名 指導者：教諭 河田 侃也

(2) 単元名 体づくり運動「体の動きを高める運動」

(3) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動きを高めるための運動をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	<p>①体の動きを高める運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めている。</p> <p>③人やものの動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めている</p> <p>④自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めている。</p>
思考・判断・表現	<p>①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。</p> <p>②自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり、動きに工夫を加えたりしている。</p> <p>③観察し合って見付けたポイントや分かったこと、解決の仕方や改善方法について伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②互いの動きを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>③学習に必要な物や用具の準備などで、役割を果たそうとしている。</p> <p>④分かったことを伝え合ったり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。</p> <p>⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。</p>

(5) 子供の実態

本学級の子供たちは、男女関係なく学習に取り組むことができる児童が多い。運動場面でも、自然と仲間同士で支え合う姿が見られ、チームで協力しようとする意識も高まっている。しかし、楽しいことを優先するあまり、本来身に付けたい資質・能力から逸脱してしまう子供も見られた。

ソフトバレーボールの授業では、自分に合ったルールを選択しながら、ゲームを各コートで行うことができていた。ボール操作に不安をもつ子供は、自分の力に応じたルールの中で楽しく運動に関わることができており、意欲的に活動する姿が多く見られた。また、第5学年から体育専科による体育授業が始まり、より専門的な授業を受けることができています。

この単元では、自分の「やってみたい」「高めたい」運動を仲間と共に学び続けることができるような「学習の仕方」を知り、仲間と共に「学び合う姿」を身に付けることができるようにしていく。

(6) 学習過程・学習内容 < 第6学年 体づくり運動 「体の動きを高める運動」 >

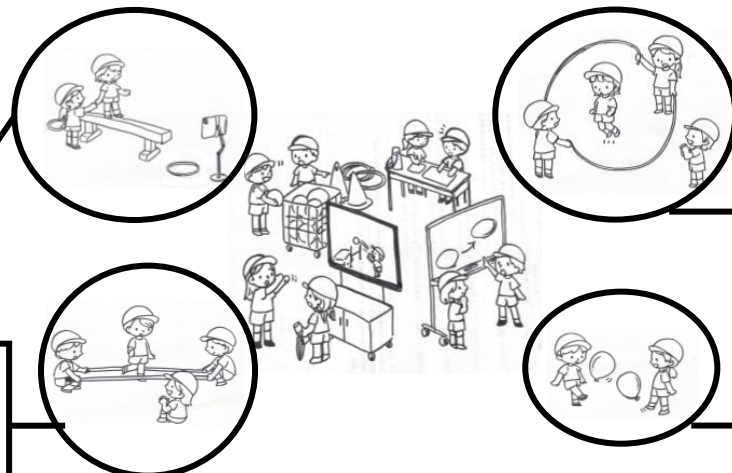

時間	1	2	3・4(本時)
段階	問いをもち、学習課題を見いだす。		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。
学習過程	運動との出会い 問いをもつ	問いから学習課題を見いだす	ポイントを意識しながら高める。 動きを工夫しながら高める。
学習活動	<p>1 集合、整列、挨拶を行う</p> <p>2 これまでの学習経験を振り返る。 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る。 4 準備運動を行う。</p> <p>5 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。</p> <div data-bbox="231 1087 667 1402"> <p>○長なわ+(タイミング)</p>  </div> <p>6 運動を通して考えたり、感じたりした問いをもつ。 7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行う。</p>	<p>2 前時にもった問いを共有する。</p> <div data-bbox="756 630 1261 693"> <p>3 準備運動を行う。</p> </div> <div data-bbox="756 714 1261 955"> <p>4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」</p>  </div> <p>5 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。</p> <div data-bbox="697 1087 1127 1402"> <p>○ペットボトルバンブー(リズムカル)</p>  </div> <div data-bbox="1142 1087 1573 1402"> <p>○スラックレール(バランス)</p>  </div> <p>6 片付け・整理運動を行う。 7 振り返りを行う。</p>	<p>2 前時の学習を想起する。</p> <p>3 準備運動を行う。</p> <div data-bbox="1291 682 2745 934"> <p>4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」</p>  </div> <p>5 自分の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="1602 1087 2033 1402"> <p>○風船けまり(力の入れ加減)</p>  </div> <div data-bbox="2062 1087 2493 1402"> <p>○ガロンスロー(力強い動き)</p>  </div> <p>6 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。</p> <p>7 片付け・整理運動を行う。</p> <p>8 振り返りを行い、次時に取り組む運動を選択する。 ※第4時には、第5時以降の見通しをもつとともに、目標の設定をする。</p>
教師のかかわり	<p>「やってみてどうだった?(実感)」 ⇒子どもの「やってみたい。」「楽しそう。」という思いを大切に。実感したことを問いとして、価値付けていく。</p>	<p>「何を高めたいの?何が高まったと思う?(高まり)」 ⇒体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。</p>	<p>「どうしたらできたの?(ポイント)」 ⇒ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。 「どんな工夫をすると高められるかな?(工夫)」 ⇒動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。 「さらに高めるためにどんなことが必要かな?(活用)」 ⇒さらに、体の動きを高めていくために必要なことについて確認していく。</p>

(7)本時の学習

① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きを高める運動に取り組むことができるようにする。

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	□評価
<p>1 集合・整列・挨拶 2 前時の学習を想起する。 3 準備運動を行 4 体の柔らかさを高める運動に取り組む。 ○エンジョイストレッチ 5 自分の学習課題やロードマップを確認する。 6 巧みな動きを高める運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。 (下記から1つ以上選択) ○スラックレール(バランス) ○風船けまり(力の入れ加減) ○バンブーステップ(リズムカル) ○長なわ+(タイミング) ○ガロスロー(力強い動き) ※教師が子供の学習状況を見取り、子供同士の共有を図り、学び方の確認を行う。</p>	<p>○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援</p> <p>○部位を意識させるよう声をかける。 ○動きの高まりが実感できるように、運動を行う前と後に現状を知る活動(計測)を取り入れる。 ○全体を円に形に広げ、一斉に運動に取り組み、互いの動きを見合えるようにする。 ○子供の学習カードから「問い」「学習課題」共有したい内容を取り上げる。 ○自分の学習課題を同じ運動の場の仲間に伝え、学び合いにつなげるようにする。 ○動きの工夫、ポイントについて、共有スペースを活用しながら確認する。 ○子供の思考を促すことを意識し、ねらいに迫れるように言葉掛けをしたり、共有を促したりする。 ◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、動画を撮影することや、仲間との対話を薦める。</p>	<p>□評価</p> <p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。 (運動・発言) □動きのこつやポイントや動きの工夫について仲間に言葉や動作で伝えている。 (運動・発言)</p>
<p>【運動に取り組んでいるときの子供の学びのイメージ】 ※共有スペースについては、手立てのページをご覧ください。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">動画撮影や、仲間のサポートのもと、体の動きを高める子供</div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">仲間の課題を共有し、課題解決に向かう子供たち</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">友達の動きを見て、課題解決しようとしている子供</div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">課題解決をしながら体の動きを高める子供</div> </div>		
<p>7 整理運動・片付け 8 振り返りを行う。</p>	<p>○各部位を意識して運動するように声を掛ける。 ○気付いたポイントや仲間との関わりを意図的に取り上げるようにする。 ○課題解決の進捗状況を聞き、次時以降の見通しをもてるようにする。</p>	